

# 百相鍵盤『き』

下見と表示

越川 和忠

(09-06-11木更新)

本稿では、百相鍵盤による入力 を支援する下見と表示の機能について説明する。

百相鍵盤では、文字あるいは文字列を文字鍵、即ち盤面上の位置に直接結びつけることができるので、目的の鍵が不確かな時には、試しに打って、違っていたら別の鍵を打ってみるという操作で、簡単に確かめることが出来る。但し、そのままでは、違うたびに、既に入ってしまった文字や働きかけた機能を取り消し、元の状態に戻さなければならない。

そこで、それぞれの打鍵で、実際の入力はされずに、効果だけがわかる「下見」の機能がある。この機能を使って次々打ってみることで、目的鍵の位置を突き止めることが出来る。

また、ソフトウェア的に実現した百相鍵盤は、鍵盤の状態を画面に表示するので、その大きさや形態、表示内容などを必要に応じて変えることができる。

以下、このような操作や表示の様式を説明する。

## 下見

「下見」は、文字鍵や機能鍵を打つと、実行はされずに、効果だけ表示あるいは音声で知ることのできる機能である。

まず、下見を指示する機能鍵 K57(下見鍵)を打つと、以後、再び K57を打って解除するまで“下見”の状態になる。

この状態で文字鍵を打つと、文字は入らず、配字簿の標題行に記載した標題あるいは定義行に記載した本字列・備考が鍵盤の標題位置に表示される。

同様に、機能鍵を打つと、機能は起動せずに、機能の短い説明だけが鍵盤標題の位置に出る。

音声利用時なら、記載された読上文が読み上げられる。

いずれも、実際に鍵を打ってその内容を知ることになるので、目的の文字や機能が打鍵の動作感覚に結びつき、覚えやすい。

また、百相鍵盤は、乙打鍵成立数の統計を取る機能も備えている。その機能を働かせている時は、下見した鍵盤や文字鍵の統計値が右下隅に示される。

## 下見の起動

この例は、  
甲鍵盤についての  
下見である。

下見の機能を起動  
するには、  
予が表示されている  
下見鍵 K57を打つ。

### 1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

## 下見の開始

統計を取っている時は、右下に統計値が出る。この例では、表甲鍵盤の総成立数が出ている。

### 1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		--	←					

127520

K57が ← に変わり  
下見の状態になった  
ことを示す。  
← は再び打つと下見  
を解消して通常状態  
に戻ることを表す。

Shiftを押すと

この統計値は、  
裏甲鍵盤の総成立数  
である。

Shiftを押すと  
裏甲鍵盤を下見する  
状態になる。

## 48～94区（第2水準）

	弋	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汩	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎬	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狃	釗				
			<=		00	A_	<-					6122	

## 機能鍵の下見

が下見中の鍵で、  
 標題部に、鍵内容や  
 機能の説明が出る。

機能の説明文も、  
 使用者がファイルで  
 定義できる(kiFnc)。

### 配字簿を取り替える

	式	僉	辦	咫	圈	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楯	壁	汨	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狖	釗				
			<=		00		A	<-					

Shiftを押した状態  
 で、K54を打つと、  
 配字簿を取り替える  
 鍵盤に替わることが  
 分かる。



## 機能鍵の下見

### 前回の倣い入力に戻る

	弑	僉	辦	咫	圈	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楯	壁	汩	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狢	釗				
			<=		00		A_	<-					

Shiftを押したまま  
K55を打つと、  
倣い入力の状態に  
戻ることがわかる。

## 機能鍵の下見

### 読み上げ方を替える

	弑	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汩	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狖	釗				
			<=		00		A_	<-					

Shiftを押したまま  
K56を打つと、  
表示や音声通知様式  
を選ぶ鍵盤に替わる  
ことがわかる。

## 文字鍵の下見

甲鍵盤の文字鍵下見で出る統計値は、該当乙鍵盤における総成立数である。

### 63区 水

	弑	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楯	槩	汩	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狃	釗				
			<=		00		A_	<-					

134

Shiftを押したまま左人差指上段を打つと、63区の鍵盤が出るのがわかる。

## 文字鍵の下見

### 64区 火爪爻片牛犬

	𠂇	𠂈	𠂉	𠂊	𠂋	𠂌	𠂍	𠂎	𠂏	𠂐	𠂑	*
	𠂒	𠂓	𠂔	𠂕	𠂖	𠂗	𠂘	𠂙	𠂚	𠂛	𠂜	𠂝
M_	𠂞	𠂟	𠂠	𠂡	𠂢	𠂣	𠂤	𠂥	𠂦	𠂧	𠂨	𠂩
■	𠂪					𠂫	𠂬	𠂭	𠂮			
		<=		00		A_	<-					

324

Shiftを押したまま  
左人差指上段右の鍵  
を打つと、  
64区の鍵盤が出る  
ことがわかる。

## 文字鍵の下見

### 65区 瓜瓦甘生用田病

	弑	僉	辦	咫	圈	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汧	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狢	釗				
			<=		00		A_	<-					153

Shiftを押したまま  
右人差指上段左の鍵  
を打つと、  
65区の鍵盤が出る  
ことがわかる。  
Shiftを放すと…

## 下見の起動

### 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*  
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①  
 a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α  
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я  
 倣 あ 127520

表甲鍵盤に戻る。  
 今度は、表甲鍵盤の  
 下見を試してみる。



## 機能鍵の下見

### 表示を消す

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 ー \*  
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①  
 a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α  
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я  
 倣 あ -- <-

K56を打つと、  
表示を消せることが  
わかる。



## 文字鍵の下見

### 19区 カイ~カク

	々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
	わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α	
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я		
			倣		あ		--	<--					

1175

左人差指最上段斜右  
は19区の鍵盤である  
ことがわかる。

## 文字鍵の下見

### 20区 かゆ～カン

	々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
	わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α	
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я		
			倣		あ		--	<--					

1408

右人差指最上段は  
20区の鍵盤である。

例えば「完」はこの  
鍵盤の可能性があると  
判断できる。

## 文字鍵の下見

### 21区 キ～きぬ

	々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
	わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α	
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я		
			倣		あ		--	<—					1000

右中指最上段は  
21区の鍵盤である。

例えば「完」はこの  
鍵盤にはないと判断  
できる。

## 文字鍵の下見

### 当座の配字用鍵盤

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		--	<--					

98

この最上段右端鍵盤の一時的配字内容は配字簿を取り替えると消失する。

最上段右端の鍵盤は配字簿による通常の配字のほか、任意の文字列を当座の使用に割り当てることもできる。

入力状態に戻る

### 当座の配字用鍵盤

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ	--	<←						

98

ここで、\*の文字列を見るなら、まず、当鍵盤の下見を終了させる。  
K57を打って…

乙鍵盤を出す



1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

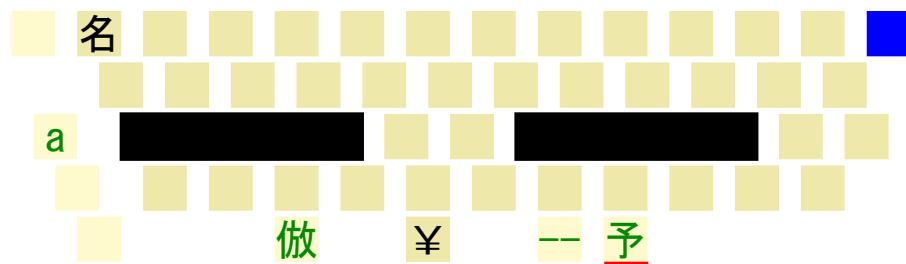
如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

通常の入力状態に戻し、  
\*を打って…

## 乙 鍵盤の下見

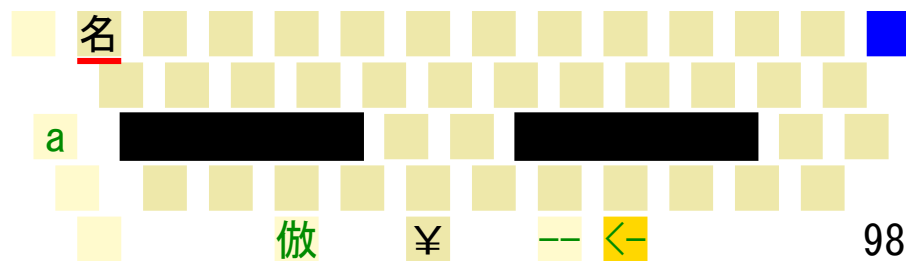
### 当座の配字用鍵盤



任意の文字あるいは文字列を割り当てた鍵盤を出す。  
下見をするため、K57を打って…

## 乙 鍵盤の下見

### 当座の配字用鍵盤



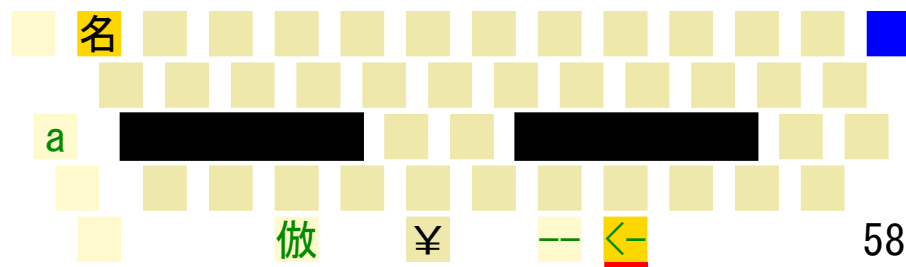
下見状態にする。  
左小指最上段 名 の  
鍵を見ると…



文字列を  
割り当てた鍵の  
下見

|

## 百相鍵盤

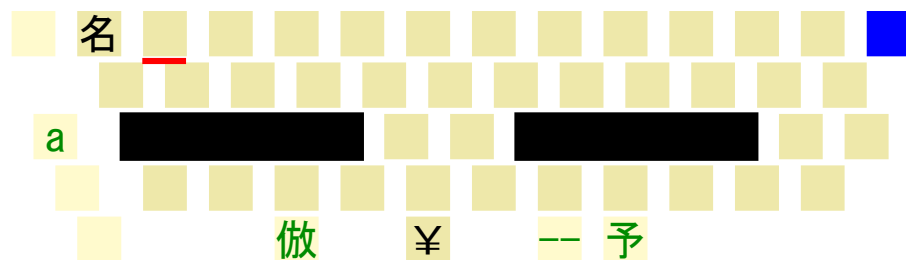


「百相鍵盤」という  
文字列が割り当てて  
ある。

K57を打って…

## 特殊文字列の入力

### 当座の配字用鍵盤



下見を終える。

右隣の左薬指最上段  
で割り当てのない鍵  
を打つと…

## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*  
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①  
 a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α  
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я  
 倣 あ 一 予

何も入らず、  
 甲鍵盤に戻る。

## 統計

百相鍵盤には、乙鍵盤の文字打鍵成立数を、文字鍵ごとに積算しておく機能がある。文字そのものの使用頻度を計るわけではないので、文字が割り当てられていない鍵でも、文字打鍵として成立すれば、計数される。

この機能は、配字を検討する際の参考にするため、長期にわたる使用で自然な統計が取れるように組み込んだものであるが、熟達度の目安などに利用することもできる。

例えば、打ち間違えて別の文字が入っても計数されるので、文書作成ソフトの統計による文書の文字数と比べることで、自分の“有効打鍵度”を知ることができる。

統計値は、メモリ内の配列に置き、配字簿を取り替える際に統計簿と呼ぶテキストファイル(配字簿名: freq)に保存する。入れ替わった配字簿では、統計簿があれば、その値から統計を続ける。なければ、統計は取らない。最初は、内容が空のファイルを与える。なお、設定の際、統計簿の数値間に矛盾がある時は採用せず、統計も取らない。

いずれにしても、使用者の参考資料にとどまるものである。

## 統計

甲打、乙打の文字鍵番号をそれぞれaa、bbとすると、  
入る文字(あるいは文字列)は、配字簿でaabb行に定義して  
あるものである。

そこで、統計値の作業用に要素数 1 万の配列freq[10000]  
を使い、この文字打鍵が成立すると、

1 freq[aabb]

2 freq[aa00] (bb<50の時) freq[aa50] (bb>50の時)

3 freq[00aa]

4 freq[0000] (aa<50の時) freq[0050] (aa>50の時)

の各配列要素に 1 加算する。

1 は、文字(あるいは文字列)の乙打鍵そのものの成立数である。

2 は、乙鍵盤としての総成立数で、表裏を区別する。

3 は、甲鍵盤で見る、乙鍵盤の表裏を合わせた総成立数である。

4 は、表甲鍵盤、裏甲鍵盤、それぞれの乙鍵盤の総成立数である。

4 の表裏の和が配字簿としての総成立数で、配字簿鍵盤の下見で  
見ることができる。

## 0000+0050 配字簿名

## 00 甲見出し

0000

0001

0002

0003

0004

0005

0006

0007

0008

0009

0010

0011

0012

0013

0014

0015

0016

0017

0018

0019

0020

0021

0022

0023

0024

0025

0026

0027

0028

0029

0030

0031

0032

0033

0034

0035

0036

0037

0038

0039

0040

0041

0042

0043

0044

0045

0046

0047

0048

0049

0050

0051

0052

0053

0054

0055

0056

0057

0058

0059

0060

0061

0062

0063

0064

0065

0066

0067

0068

0069

0070

0071

0072

0073

0074

0075

0076

0077

0078

0079

0080

0081

0082

0083

0084

0085

0086

0087

0088

0089

0090

0091

0092

0093

0094

0095

0096

0097

0098

0099

## 01 乙見出し

0100

0101

0102

0103

0104

0105

0106

0107

0108

0109

0110

0111

0112

0113

0114

0115

0116

0117

0118

0119

0120

0121

0122

0123

0124

0125

0126

0127

0128

0129

0130

0131

0132

0133

0134

0135

0136

0137

0138

0139

0140

0141

0142

0143

0144

0145

0146

0147

0148

0149

0150

0151

0152

0153

0154

0155

0156

0157

0158

0159

0160

0161

0162

0163

0164

0165

0166

0167

0168

0169

0170

0171

0172

0173

0174

0175

0176

0177

0178

0179

0180

0181

0182

0183

0184

0185

0186

0187

0188

0189

0190

0191

0192

0193

0194

0195

0196

0197

0198

0199

## 02 乙見出し

0200

0201

0202

0203

0204

0205

0206

0207

0208

0209

0210

0211

0212

0213

0214

0215

0216

0217

0218

0219

0220

0221

0222

0223

0224

0225

0226

0227

0228

0229

0230

0231

0232

0233

0234

0235

0236

0237

0238

0239

0240

0241

0242

0243

0244

0245

0246

0247

0248

0249

0250

0251

0252

0253

0254

0255

0256

0257

0258

0259

0260

0261

0262

0263

0264

0265

0266

0267

0268

0269

0270

0271

0272

0273

0274

0275

0276

0277

0278

0279

0280

0281

0282

0283

0284

0285

0286

0287

0288

0289

0290

0291

0292

0293

0294

0295

0296

0297

0298

0299

## 03 乙見出し

0300

0301

0302

0303

0304

0305

0306

0307

0308

0309

0310

0311

0312

0313

0314

0315

0316

0317

0318

0319

0320

0321

0322

0323

0324

0325

0326

0327

0328

0329

0330

0331

0332

0333

0334

0335

0336

0337

0338

0339

0340

0341

0342

0343

0344

0345

0346

0347

0348

0349

## 統計簿における値の配置

133642 d:¥ki¥kiMap												
00	々											
	127520											
	2021	327	1869	767	2070	1175	1408	1000	900	735	2893	111
	3139	7838	1277	4323	1686	1140	3430	1945	1274	1188	1141	128
	10367	12565	8053	7873	1197	1362	2144	1528	1742	1335	2013	124
	969	1741	3775	1372	3163	576	1303	1821	1951	306	113	16244
												98
	6122											
	119	123	120	118	118	111	111	446	419	126	117	120
	120	138	109	134	324	153	125	156	150	114	142	122
	121	161	115	126	139	129	145	114	117	115	116	199
	35	10	13	3	10	120	130	107	107	7	18	126
												4
01	々											
	1985											
	575	565	301	39	10	6	5	2	1	1	0	0
	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1
	141	2	1	0	46	1	1	1	28	2	1	1
	29	5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	204
												1
	36											
	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	1	9	1	0	2	0	0	1	1	1
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
	0	0	0	1	0	1	1	2	1	1	1	0
												0
02	◇											
	245											
	21	6	2	11	3	2	2	2	4	3	1	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
	0	2	2	3	2	2	2	3	3	0	5	13
	0	2	2	2	2	4	2	2	3	0	8	113
												0
	82											
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	2	2	2	2	2	3	2	3	2	2	2
	2	2	3	0	2	0	0	0	0	0	2	2
	3	2	4	24	6	3	0	0	0	0	1	0
												0
03	垂											
	900											
	39	12	11	15	8	12	9	9	8	8	11	9
	24	12	6	6	6	6	6	8	18	6	31	7
	6	6	9	13	13	6	6	10	6	26	6	6
	8	24	6	6	7	157	11	193	23	7	17	39
												2

## 表示

ソフトウェア的に実現した百相鍵盤では、鍵盤の状態を画面に表示される鍵盤図から知るという方法を採用するので、一般画面の面積をある程度占用し、その分、システムの負担も増すが、その大きさや位置、形は、必要に応じて変えることができ、頼る必要がなければ消してもおける。

始めに、その様々な表示形態を紹介する。即ち、表情である配列の変化“百相”に対し、姿形の“百態”である。

次に、それぞれの表示をさせる操作について説明する。フォントとサイズは、想定した状況に合う値を記載したファイル(表示簿)を予めいくつか用意しておき、それを実行時に、随時取り替える操作で変える。配色は、初期設定ファイルで設定し、起動後は変えない。

なお、鍵盤図は、文字同士の位置関係が一目でつかめるように示すものなので、文字より先に意識が向く枠などの線図形はその性質を特に必要とする事柄にだけ使う。



鍵盤の位置は、  
鍵盤枠四隅の一つを基準点に採り、  
その位置で表す。  
形が変わる時もその隅を不動点にする。

初期設定では  
鍵盤を画面の左下隅に置き、  
不動点も左下隅になっている。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	垂	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		做		あ		一	予					

位置

初期設定は左下隅

上辺まで

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		做		あ		一	予					

● は不動点

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		做		あ		一	予					

右端まで

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		做		あ		一	予					

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		做		あ		一	予					

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		做		あ		一	予					

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		做		あ		一	予					

マウスで移動

不動点は始め左下隅

上辺まで

1～47区 (『き』の配字)

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я
		倣		あ		一	予				

画面枠に達するとそこで止まり  
不動点を更新する

最寄りの画面枠に近い隅が  
新たな不動点になる

● は不動点

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

右端まで

鍵盤枠内の任意の点を  
マウス左ボタンで押さえて移動させ  
目的位置でボタンを放す

枠内図形要素の識別はしない  
打鍵では移動できない

『き』の配字)

院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①
さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
倣		あ		一	予				

1～47区 (『き』の配字)

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

1～47区 (『き』の配字)

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

マウスで移動

不動点は始め左下隅

- は不動点

1～47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

粥 機 供 掘 検 十 \*

察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

1～47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

1～47区 (『き』の配字)

臈 叩 帖 邸 董 α

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

去 漫 諭 痢 蓮 я

一 予

1～47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄

如 函 は 鼻 福

倣 あ

1～47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

フォントの大きさを変えると枠の大きさも変わる

## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*  
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①  
 a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α  
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я  
 <- あ -- 予

倣い入力にすると鍵盤案内の図が拡張するが、  
 そのままでは上が食み出す時は…

不動点は  
左上隅に  
移る

## 読みで漢字・語句（表記）を引く



### 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 予

上辺で抑えて全体が下がる

## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 予

## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

< あ 予

拡張部を閉じると上辺におさまる

## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*  
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①  
 a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α  
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я  
 倣 あ 予



## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く- あ -- 予

読みで漢字・語句（表記）を引く



# 1～47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 予 9AD8+

読みで漢字・語句（表記）を引く

こうえん

口演

公園 \*

公演 \*

広遠 宏遠 気宇-

好演 \*

高遠 \* -な理想

後援 \* -会

講演 \*

講筵 -に列する

## 1～47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 予 9AD8+

読みで漢字・語句（表記）を引く

こうえん

高遠 \* -な理想

公園 \*

公演 \*

広遠 宏遠 気宇-

好演 \*

高遠 \* -な理想

後援 \* -会

講演 \*

講筵 -に列する

表記群の表示を注目行だけにもできる

## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く- あ -- 予 9AD8+

読みで漢字・語句（表記）を引く

こうえん

高遠 \* -な理想

## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く- あ -- 予 9AD ↓ ↑

読みで漢字・語句（表記）を引く

こうえん

高遠 \* -な理想

ここで、例えば、↓ (K61) を打つと…

## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 予 5F8 ↓

読みで漢字・語句（表記）を引く

こうえん

後援 \* 一会

注目行は、次の行に替わる。  
更に↓(K61)を打つと…

## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

＜－ あ 予 8B1 ↓

読みで漢字・語句（表記）を引く

こうえん

講演 \*

次の行に替わる。  
更に↓(K61)を打つと…

## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 ー \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 予 8B1B+

読みで漢字・語句（表記）を引く

こうえん

講筵 -に列する

次の行に替わる。

今度は、群の最終行であるため、  
更に↓(K61)を打っても、先に進まない。

即ち、表記行の1群は10行単位であり、  
1行表示もその中の注目行を表示する。  
字引の該当項目にある表記行全体を  
1行ずつ順に表示するわけではない。

この仕様により、  
行位置を失っても↑(K58)を最大9打で  
群の先頭行に戻ってとどまる。

注目行だけの表示形態での操作



## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 ー \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 予 8B1B+

読みで漢字・語句

こうえん

講筵 -に列す

## 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 ー \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 予 8B1B+

読みで漢字・語句（表記）を引く

こうえん

講筵 -に列する

マウスで移動

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 ー \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 ー \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

く あ 一 予 8B1B+

読みで漢字・語句（表記）を引く

こうえん

講筵 -に列する

マウスで移動 下辺に達して…

# 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*  
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①  
 な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α  
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я  
 < あ 予 8B1B+

読みで漢字・語句（表記）を引く

こうえん

講筵 -に列する

不動点が変わる フォントで移動

# 1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臓	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
			倣		あ		一	予				

読みで漢字・語句（表記）を引く

こうえん

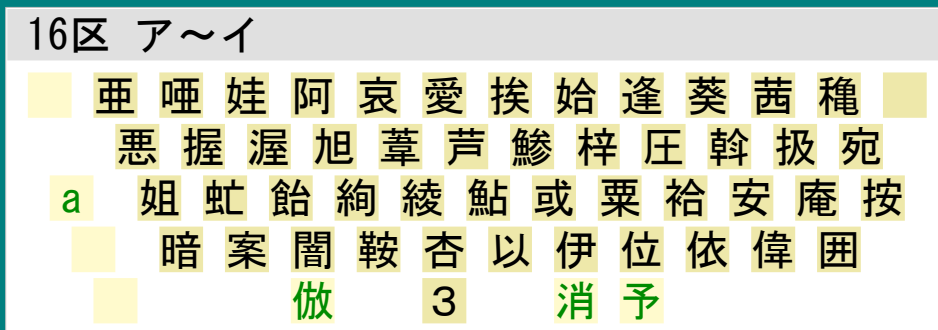
講筵 -に列する

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
な	た	さ	か	澄	織	臓	叩	帖	邸	董	α	
如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я		
			く	あ		一	予					

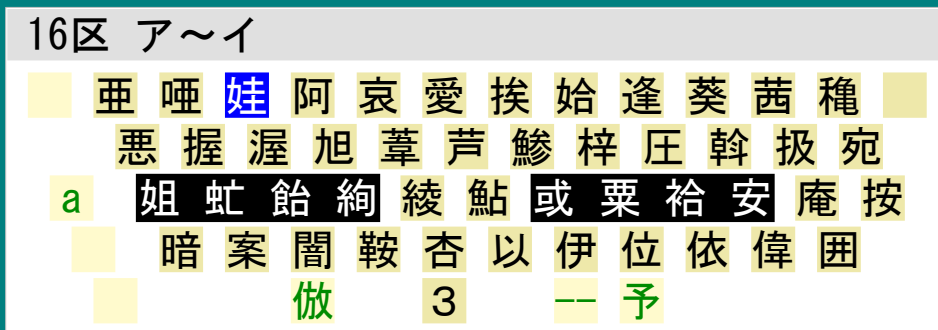
8B1B+

倣い入力の状態に復帰させる



文字鍵配列を  
モード図にする  
と、単純には  
このままでは  
各鍵の位置を  
知るのが少  
戸惑うので…

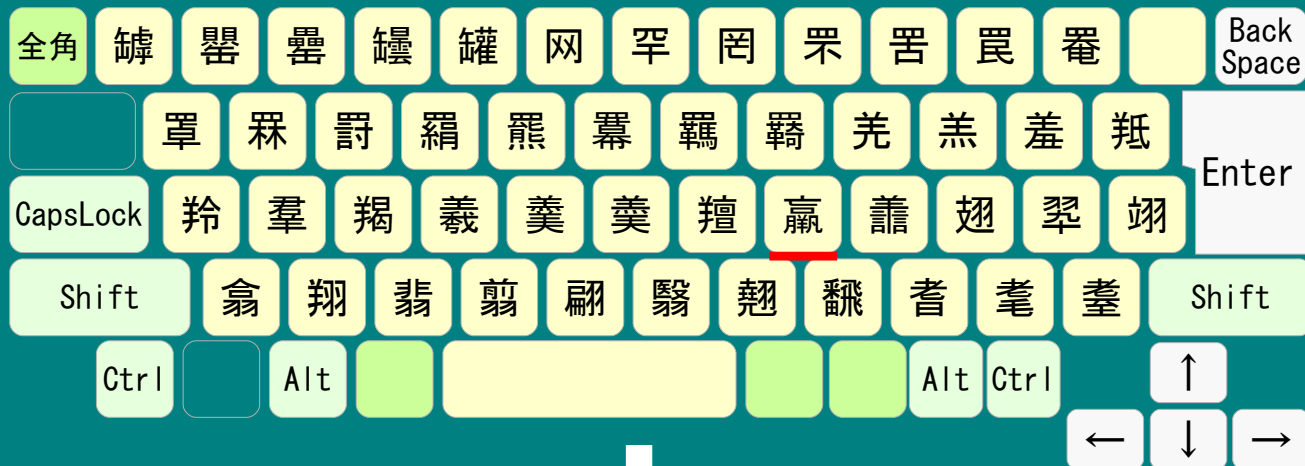
鍵盤内容の表示用模式図



指を置く基本  
の位置に塗り  
潰した矩形を  
描いてあり、  
これによって  
位置が相対的  
に分かるよう  
にしている。

■は甲鍵盤でこの乙鍵盤を出す鍵の位置

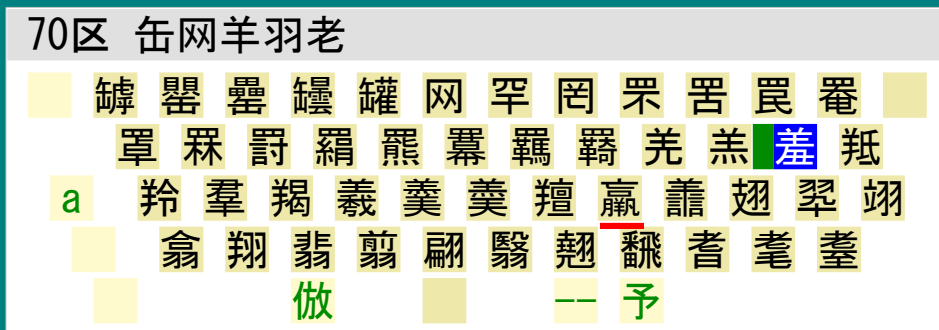
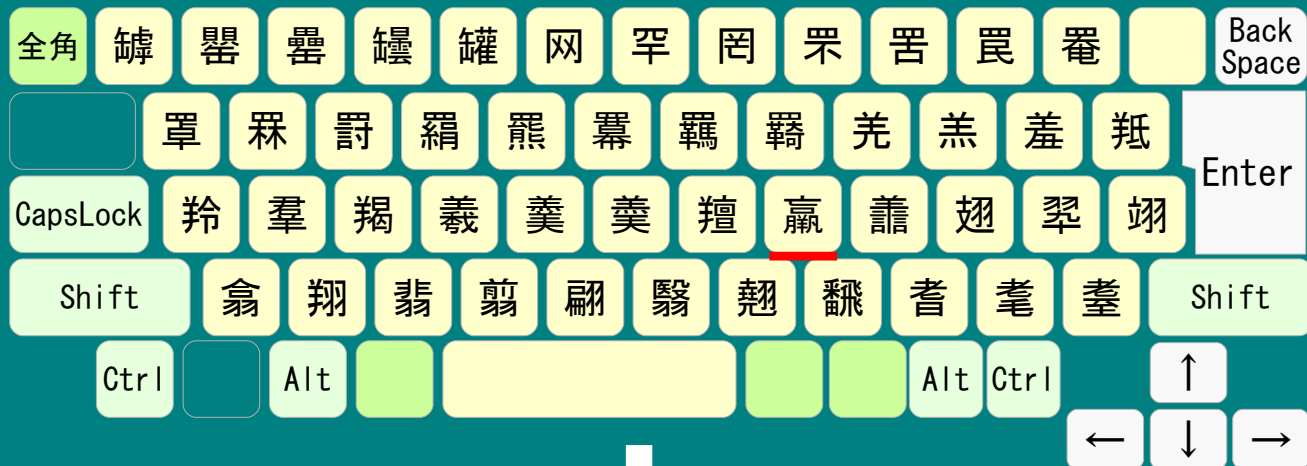
鍵盤内容の画面表示様式（乙鍵盤）



70区 缶网羊羽老													
	罇	罍	罍	罍	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	
	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	
a	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	
	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	罇	
		罇											

但し、筆画の複雑な漢字が、表示されて、その筆画自体をよく見たい時もある...





その場合には  
矩形を外して  
見ることも、  
あるいは、  
小さい表示で  
小筆画が正しい  
とは限らない  
なら...

筆画が複雑な漢字の鍵盤図



表示簿鍵盤を出す

次に、  
以上のような表示様式を  
随時切り替えて使うための操作について  
下図の鍵盤状態を例にとって説明する。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し ーの構え ; おとなし

音 \* ; おん

音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

18区 オウ～カ

押 旺 横 欧 毘 王 翁 襖 鶯 鷗 黄 岡  
沖 荻 億 屋 憶 臆 桶 牡 乙 俺 卸 恩  
温 穩 音 下 化 仮 何 伽 伽 佳 加 可  
嘉 夏 嫁 家 寡 科 暇 果 架 歌 河  
← 5 予 97F3

表示簿を選ぶ鍵盤を  
出すには、Shiftを  
押して…

## 表示簿鍵盤を出す

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 一 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ;あしおと

異口同音 \* ;いくどうおん

音 \* ;おと

音沙汰 ;おとさた

音無し 一の構え ;おとなし

音 \* ;おん

音韻 \* ;おんいん

音階 \* ;おんかい

音楽 \* ;おんがく

音感 \* ;おんかん

18区 カ〜カイ

火 珂 禍 禾 稼 箇 花 苛 茄 荷 華 菓  
蝦 課 嘩 貨 迦 過 霞 蚊 俄 峨 我 牙  
M 画 臥 芽 蛾 賀 雅 餓 駕 介 会 解 回  
塊 壞 廻 快 怪 悔 恢 懷 戒 拐 改  
予 97F3

表示が A\_になった  
K56を打つと…

## 表示簿鍵盤を出す

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 躰音 ; あしおと

異口同音 \* ;いくどうおん

音 \* ;おと

音沙汰 ;おとさた

音無し -の構え ;おとなし

音 \* ;おん

音韻 \* ;おんいん

音階 \* ;おんかい

音楽 \* ;おんがく

音感 \* ;おんかん

読み上げ方を替える

予 != 鍵 習 逐 f9







案内簿（表示簿・  
読上簿）を選ぶ鍵盤  
が出る。Shift 押し  
裏鍵盤は音声関連の  
読上簿選択用なので  
Shift を放すと…

## 大きさを変える

現在設定されている表示簿の鍵が緑の字の見出しで示されている。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ;あしおと

異口同音 \* ;いこうおん

音 \* ;おと

音沙汰 ;おとさた

音無し ーの構え ;おとなし

音 \* ;おん

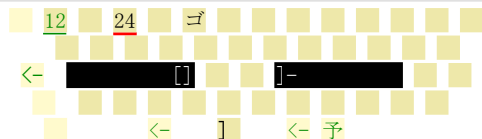
音韻 \* ;おんいん

音階 \* ;おんかい

音楽 \* ;おんがく

音感 \* ;おんかん

表示の仕方を替える



表示の設定用である表示簿鍵盤が出る。ここで、例えば、左中指最上段、24が示されている鍵を打つと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

立竝 \* ; おんいん

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

18区 オウ～カ

押 旺 横 欧 毘 王 翁 襖 鶯 鷗 黄 岡

沖 荻 億 屋 憶 臆 桶 牡 乙 俺 卸 恩

温 穩 音 下 化 仮 何 伽 価 佳 加 可

嘉 夏 嫁 家 寡 科 暇 果 架 歌 河

く 5 予 97F3

翁 襖 鶯 鷗 黄 岡  
桶 牡 乙 俺 卸 恩  
何 伽 価 佳 加 可  
斗 暇 果 架 歌 河  
予

97F3

大きさを変える

フォントサイズが12から24になり、鍵盤は文字入力の状態に戻る。  
枠は左下隅を不動点にして拡大する。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

18区 オウ～カ

押 旺 横 欧 殴 王 翁 襖 鶯 鷗 黄 岡

沖 荻 億 屋 憶 臆 桶 牡 乙 俺 卸 恩

温 穩 音 下 化 仮 何 伽 価 佳 加 可

嘉 夏 嫁 家 寡 科 暇 果 架 歌 河

<-

5

--

予

97F3

表示簿鍵盤を出す

同様に、表示簿  
を選ぶ操作で変わる  
表示の例をいくつか  
示す。

Shiftを押して…



漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

18区 カ～カイ

火 珂 禍 禾 稼 箇 花 苛 茄 荷 華 菓  
蝦 課 嘩 貨 迦 過 霞 蚊 俄 峨 我 牙  
M\_ 画 臥 芽 蛾 賀 雅 餓 駕 介 会 解 回  
塊 壞 廻 快 怪 悔 恢 懷 戒 拐 改  
<: A\_ 予

97F3

表示が A\_ になった  
K56を打って…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

読み上げ方を替える

予 != 鍵 習 逐 fq  
<-  
音 予  
<- ::

案内簿を出し、  
Shiftを放して...

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

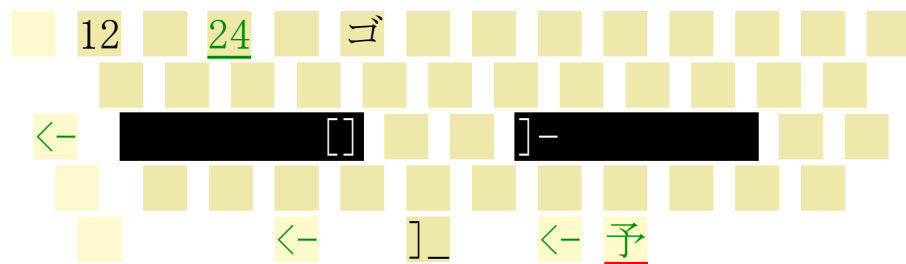
音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

表示の仕方を替える



表示簿の下見

表示簿鍵盤にする。  
ここで、  
表示簿の内容を下見  
で確かめてみる。  
K57を打つと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

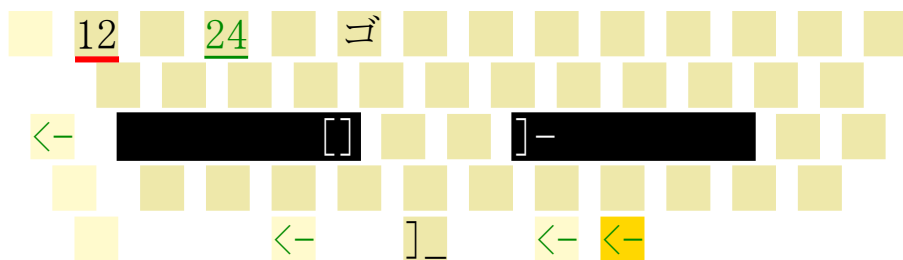
音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

表示の仕方を替える



表示簿の下見

表示簿鍵盤に関する  
下見の態勢になる。

念のため、はじめ12  
だった左小指最上段  
の12を見ると…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

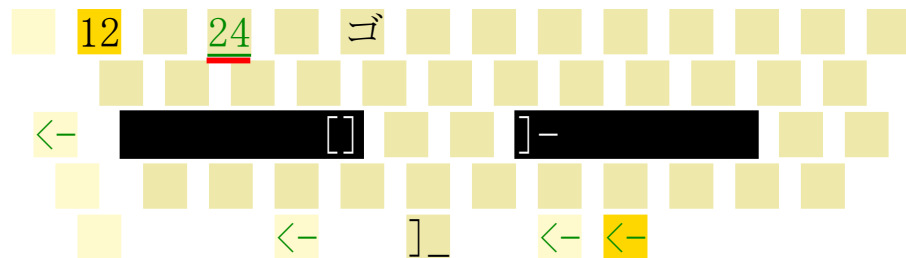
音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

## 12. MS 明朝



表示簿の下見

字高12のMS明朝で  
あることが分かる。  
次に、右に2つ目の  
24を見ると…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

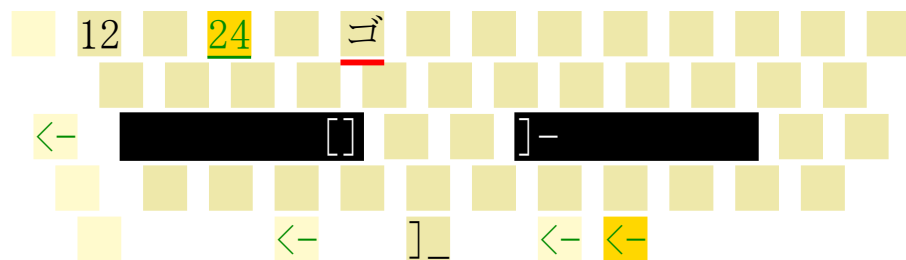
音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

24.



表示簿の下見

字高を24に設定するだけの表示簿であることが示される。次に、左人差指最上段右の「ゴ」を見ると…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

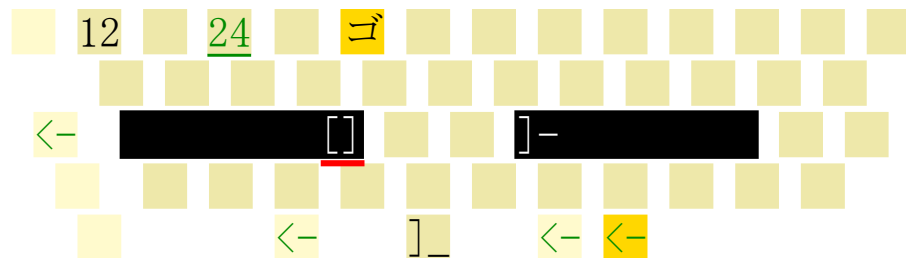
音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

00. MS ゴシック



フォントだけ  
MS ゴシックに  
替える指示と判る。  
次に、  
左人差指 []  
を見ると…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

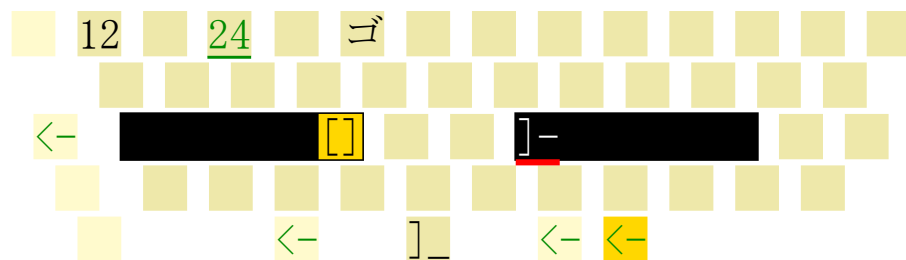
音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

[ ] 指置位置、呼び字列矩形の有無を切替える



表示簿の下見

指置位置と呼び字列  
矩形の表示・不表示  
切替え指示になる。  
次に、  
右人差指、]-の鍵を  
見ると...



漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

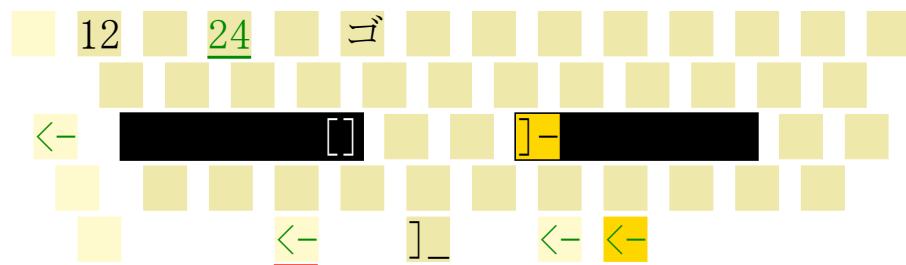
音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

] - 表記群の群表示・注目行表示を切替える



表示簿の下見

表記行を10行/1行間で交互に切り替える指示になる。

次に、  
K55を見ると…

## 漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 躑音 ; あしおと

異口同音 \* ;いくどうおん

音 \* ;おと

音沙汰 ;おとさた

音無し -の構え ;おとなし

音 \* ;おん

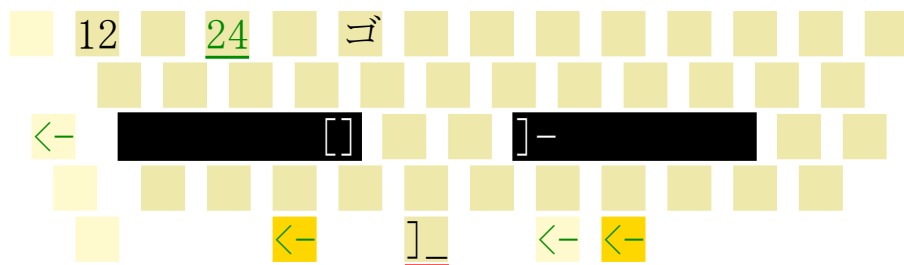
音韻 \* ;おんいん

音階 \* ;おんかい

音楽 \* ;おんがく

音感 \* ;おんかん

## 文字鍵盤に戻る



## 表示簿の下見

表示簿鍵盤を出した  
元の文字鍵盤に戻る  
指示になる。

次に、  
] のK48を見ると…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

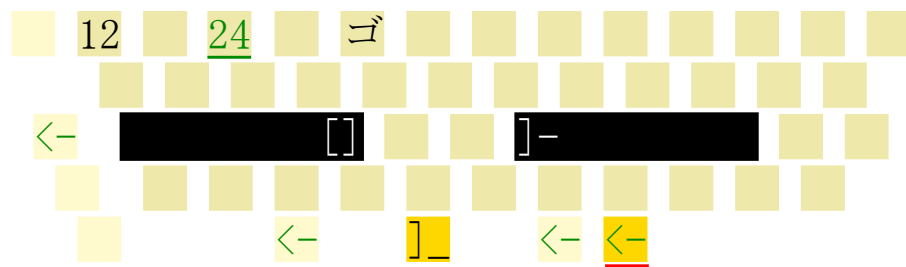
音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

]\_ 鍵盤表示・無盤表示を切替える



鍵盤を表示する状態と表示はタイトル行だけにとどめる状態とを切り替える指示になる。(後述)  
ここで、再びK57を打つと…

下見の終了

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

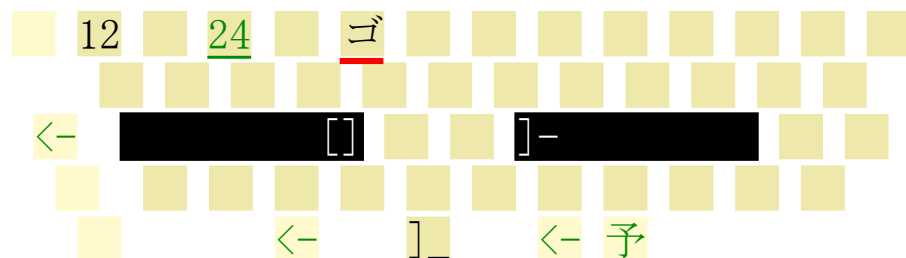
音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

表示の仕方を替える



表示簿の取り替え  
(フォント)

下見を終了して、  
表示簿鍵盤に戻る。

実際に、例えば、  
左人差指最上段右の  
ゴの鍵を打つと…

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

18区 オウ～カ

押 旺 横 欧 殴 王 翁 襖 鶯 鷗 黄 岡

沖 荻 億 屋 憶 臆 桶 牡 乙 俺 卸 恩

温 穩 音 下 化 仮 何 伽 価 佳 加 可

嘉 夏 嫁 家 寡 科 暇 果 架 歌 河

<-

5

--

予

97F3

表示簿の取り替え  
(フォント)

ゴシックでの表示に  
変わる。  
同様にして、実際に  
表示様式をいくつか  
出してみる。  
即ち…

## 漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

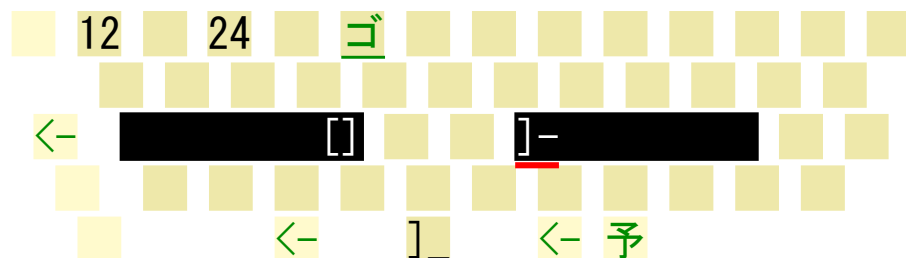
音韻 \* ; おんいん

音階 \* ; おんかい

音楽 \* ; おんがく

音感 \* ; おんかん

## 表示の仕方を替える



表示簿の取り替え  
(表記の群表示有無)

表示簿鍵盤を出して

右人差指 ]- の鍵を  
打つと…

表示簿の取り替え  
(表記の群表示有無)

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

足音 \* 登音 ; あしおと

異口同音 \* ; いくどうおん

音 \* ; おと

音沙汰 ; おとさた

音無し -の構え ; おとなし

音 \* ; おん

音韻 \* ; おんいん

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

異口同音 \* ; いくどうおん

18区 オウ~カ

押 旺 横 欧 殴 王 翁 襖 鶯 鷗 黄 岡

沖 荻 億 屋 憶 臆 桶 牡 乙 俺 卸 恩

温 穩 音 下 化 仮 何 伽 価 佳 加 可

嘉 夏 嫁 家 寡 科 暇 果 架 歌 河

<-

5

--

予

97F3

表記群の表示が、  
注目字のある行だけ  
になる。

表示簿の取り替え  
(表記の群表示有無)

これは、表示画面が  
固定で、表示行数も  
限られている鍵盤を  
想定した実験用仕様  
である。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

異口同音 \* ;い くだう おん

18区 オウ～カ

押 旺 横 欧 殴 王 翁 襖 鶯 鷗 黄 岡  
沖 荻 億 屋 憶 臆 桶 牡 乙 俺 卸 恩  
温 穩 音 下 化 仮 何 伽 価 佳 加 可  
嘉 夏 嫁 家 寡 科 暇 果 架 歌 河  
<- 5 -- 予 97F3

字引標題、見出し、  
注目行が拡張表示に  
なる。  
以下、この状態で、  
表示様式変更の操作  
を続けてみる。



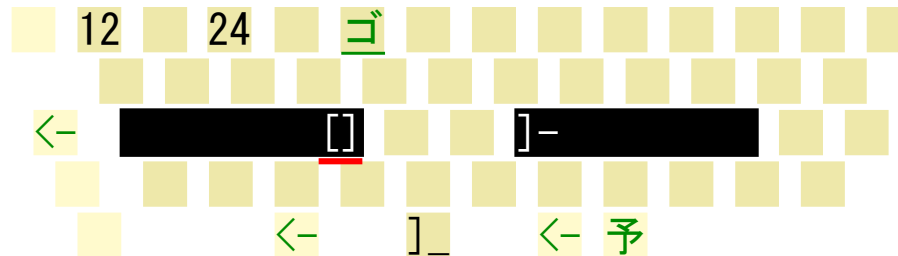
表示簿の取り替え  
(指置・呼び字列矩形有無)

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

異口同音 \* ;いくどうおん

表示の仕方を替える



表示簿鍵盤を出して  
左人差指 [] の鍵を  
打つと…

表示簿の取り替え  
(指置・呼び字列矩形有無)

これは、位置よりも  
字形をよく見たい時  
に一時的に利用する  
ことを想定した仕様  
である。

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

異口同音 \* ;いくどうおん

18区 オウ～カ

押 旺 横 欧 殴 王 翁 襖 鶯 鷗 黄 岡  
沖 荻 億 屋 憶 臆 桶 牡 乙 俺 卸 恩  
温 穩 音 下 化 仮 何 伽 価 佳 加 可  
嘉 夏 嫁 家 寡 科 暇 果 架 歌 河  
<- 5 -- 予 97F3

指を置く基本位置と  
呼び字列の塗り潰し  
矩形を取り去る。

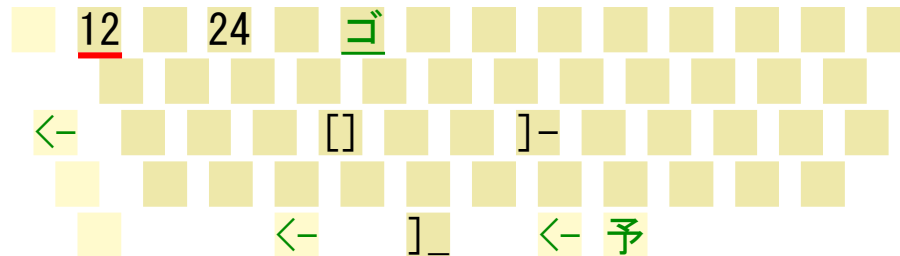
## 表示簿の取り替え (フォント変更)

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 ー 9 オン イン おと ね

異口同音 \* ;い どうおん

表示の仕方を替える



再び、表示簿鍵盤を  
出して、  
左小指最上段 12  
の鍵を打つと...

## 表示簿の取り替え (フォント変更)

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 一 9 オン イン おと ね

異口同音 \* ;いくどうおん

18区 オウ～カ

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 一 9 オン イン おと ね

異口同音 \* ;いくどうおん

18区 オウ～カ

押 旺 横 欧 毬 王 翁 襖 鶯 鷗 黄 岡  
沖 荻 億 屋 憶 臆 桶 牡 乙 俺 卸 恩  
温 穩 音 下 化 仮 何 伽 価 佳 加 可  
嘉 夏 嫁 家 寡 科 暇 果 架 歌 河  
5 予 97F3

翁 襖 鶯 鷗 黄 岡  
桶 牡 乙 俺 卸 恩  
何 伽 価 佳 加 可  
斗 暇 果 架 歌 河  
予 97F3

字高12、MS明朝の  
表示に替わる。

## 表示簿の取り替え

漢字からその語例を引く(読み付) 090516更新

音 一 9 オン イン おと ね

異口同音 \* ;いくどうおん

18区 オウ～カ

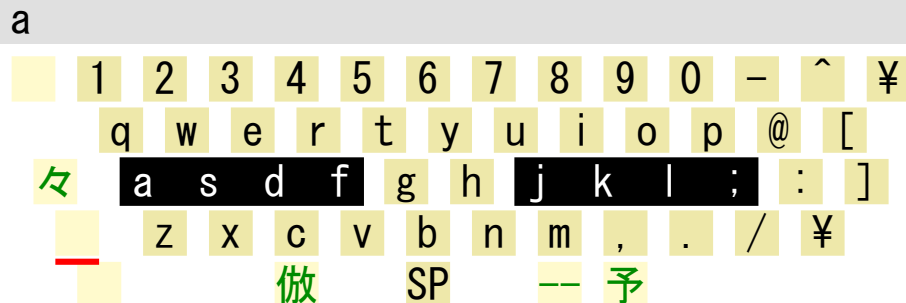
押	旺	横	欧	毬	王	翁	襖	鶯	鷗	黄	岡	
沖	荻	億	屋	憶	臆	桶	牡	乙	俺	卸	恩	
温	穩	音	下	化	仮	何	伽	価	佳	加	可	
嘉	夏	嫁	家	寡	科	暇	果	架	歌	河		
		く		5		一	予					

97F3

以上のように表示の仕方は必要に応じて表示簿鍵盤で表示簿を取り替える操作で変えて行く。

## 無盤表示

鍵盤図や倣い入力時の拡張部は表示せずに、  
標題部だけにとどめる表示の仕方である。  
但し、呼び字列の編集時は、呼び字列行を、  
表記群が出ている時は、注目行と倣い打つ鍵  
の配鍵番号を表示する。また、選択鍵盤では  
現在設定されている簿の配鍵番号も示す。

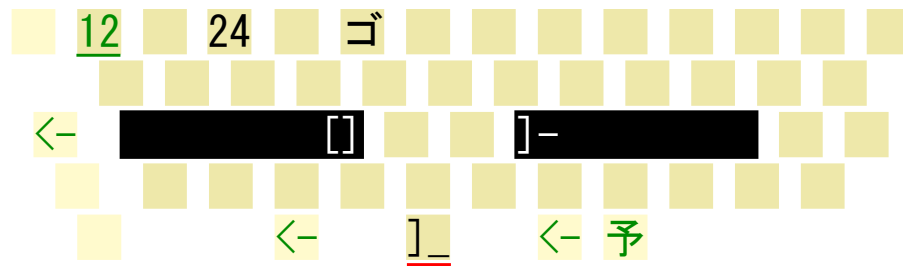


## 鍵盤表示

表示簿を選ぶ鍵盤を  
出して…

## 表示簿鍵盤

### 表示の仕方を替える



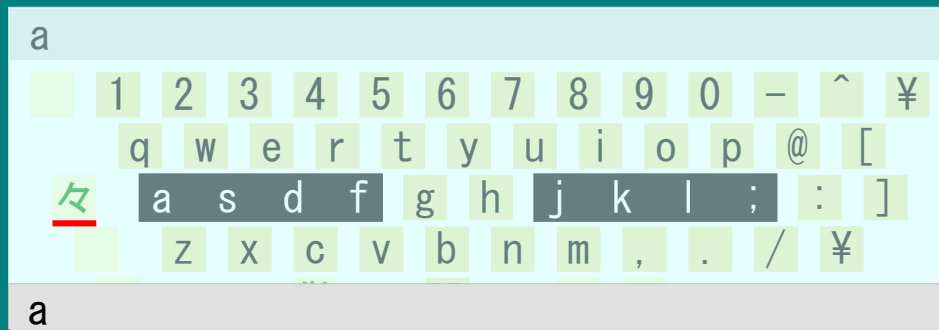
表示簿鍵盤で、  
最下段 ]\_ を選ぶと  
...

## 無盤表示

標題部が右に伸びた形の表示になる。再び 切り替え指示の表示簿を選ぶと鍵盤表示に戻る。この操作で、交互に切り替わる。



## 単打鍵盤



不動点

以下の説明図では、対応が分かりやすいように、鍵盤表示を背後に薄く示す。

## 甲鍵盤

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

1～47区（『き』の配字）

甲鍵盤

## 甲鍵盤

### 21区 キ～きぬ

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

### 21区 キ～きぬ

文字鍵の内容は下見の機能で知ることができる。  
右に下見している鍵の配鍵番号が出る。

08

## 読みで漢字・語句（表記）を引く

## 呼び字列の編集時

### 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

呼び字列を編集している時は、  
呼び字列の編集行が出る。

読みで漢字・語句（表記）を引く

呼び字列の編集時

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

1～47区（『き』の配字）

鍵盤は下見の機能で  
知ることができる。

## 読みで漢字・語句（表記）を引く

## 呼び字列の編集時

### か行

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

### か行

配字も、不確かなら  
下見で確かめる。  
即ち、文字鍵を打つ  
と、乙鍵盤の標題が  
出る。

28

## 読みで漢字・語句（表記）を引く

以下、倣い入力のスライドで例にとった  
「かんぺき→完璧」の倣い入力操作を、  
無盤表示で進めて行く操作を説明する。

### 1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

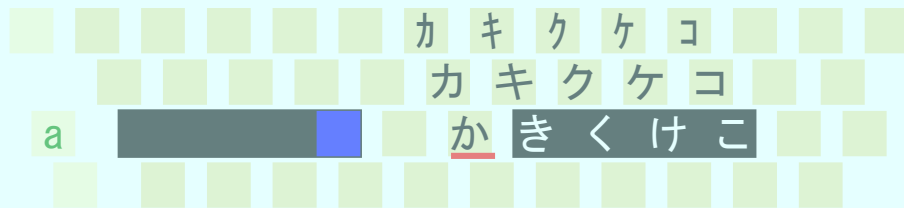
如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

呼び字列の編集時  
例：かんぺき

甲鍵盤で、か行は、  
左人差指の鍵なので  
それを打つと…

## 読みで漢字・語句（表記）を引く

### か行



呼び字列の編集時  
例：かんぺき

か行の鍵盤に替わる  
が、表示はそのまま  
で変わらない。  
かは右人差指左の鍵  
なので、  
それを打つと…



読みで漢字・語句（表記）を引く

か

呼び字列の編集時  
例：かんぺき

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

か

呼び字列に  
かが入って、  
甲鍵盤に戻る。  
ん は あ行の鍵盤に  
あるので、最下段の  
スペースを打ち…

読みで漢字・語句（表記）を引く

か

あ行、記号

ン ツ ア イ ウ エ オ 「 」  
ン ツ ケ カ ア イ ウ エ オ 「 」  
a ん っ あ い う え お “ ”  
＜ ＞ [ ] ‘ ’ ー 、 。 ・

か

呼び字列の編集時  
例：かんぺき

左小指の鍵を打つと  
...

読みで漢字・語句（表記）を引く

かん,

呼び字列の編集時  
例：かんぺき

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 卜 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

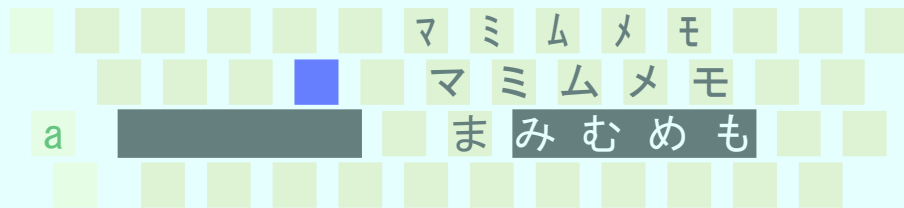
かん,

呼び字列に  
ん が入る。  
ぺはま行の濁音相当  
の え段なので、  
まず、左人差指上段  
の鍵を打って…

読みで漢字・語句（表記）を引く

かん,

ま行



かん,

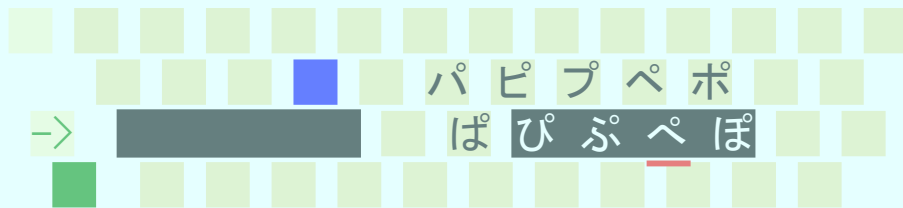
呼び字列の編集時  
例：かんぺき

ま行の鍵盤に替えて  
...

読みで漢字・語句（表記）を引く

かん,

ぱ行（半濁音）



かん,

呼び字列の編集時  
例：かんぺき

Shiftを押しながら  
右薬指の鍵を打つ。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺ、

48～94区（第2水準）

弌 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 \*  
楯 槩 汧 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罅 隋  
M\_ 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎔 陝 顱 髻 鵝  
堯 纒 忒 狖 釗

かんぺ、

呼び字列の編集時  
例：かんぺき

呼び字列に  
ぺが入る。  
Shiftを放して…

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺ、

呼び字列の編集時  
例：かんぺき

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

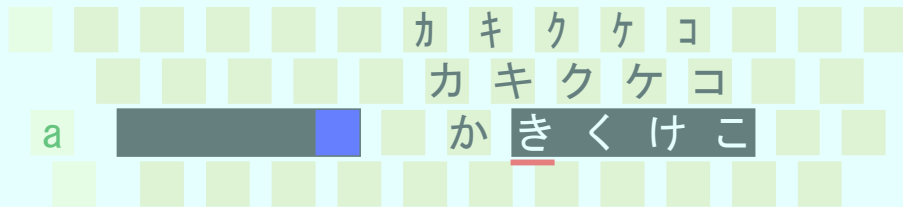
かんぺ、

表甲鍵盤に戻る。  
再び、左人差指の鍵  
を打って、

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺ、

か行



かんぺ、

呼び字列の編集時  
例：かんぺき

か行の鍵盤で、  
右人差指の鍵を打つ  
と...



読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

呼び字列の編集時  
例：かんぺき

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

Enter

かんぺき

呼び字列に  
きが入る。  
ここでEnter (K63) を  
打って…

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

完壁 -を期する

表記群が出ている時  
例：完璧

表記群が出ている時は、注目字のある行（注目行）を表示し、注目字を入れる鍵の配鍵番号を打鍵毎に右に出す。甲鍵盤の配鍵番号は青い字で示される。

表記群を出すと、表記「完璧」が出て完 は K07の鍵盤にある、と示される。それを打つと…

07

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

20区 かゆ～カン

粥刈苳瓦乾侃冠寒刊勘勸卷

喚堪姦完官寛干幹患感慣憾

換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環

甘監看竿管簡緩缶翰肝艦

完壁 -を期する

表記群が出ている時  
乙鍵盤の下見

乙鍵盤では該当鍵の  
配鍵番号が赤い字に  
変わる。

乙鍵盤で K16の鍵が  
完の鍵であることを  
教えている。  
ここで K16の位置を  
確かめておくことに  
して K57を打つと…

16

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

20区 かゆ～カン

粥刈苻瓦乾侃冠寒刊勘勸卷  
喚堪姦完官寛干幹患感慣憾  
換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環  
甘監看竿管簡緩缶翰肝艦

20区 かゆ～カン

表記群が出ている時  
乙鍵盤の下見

20区の鍵盤における  
各鍵の下見ができる  
状態になる。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

干 六 3 カン ほす ひる

粥刈苻瓦乾侃冠寒刊勘勸卷

喚堪姦完官寛干幹患感慣憾

換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環

甘監看竿管簡緩缶翰肝艦

干 六 3 カン ほす ひる

表記群が出ている時  
乙鍵盤の下見

部首の順で、完は干より前にある。

右人差指上段あたりを打ってみると、配鍵番号は19(K19)である。従って、左3鍵目が目的の鍵である、と判る。

19

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

完 四 7 カン

粥刈苻瓦乾侃冠寒刊勘勸卷  
喚堪姦完官寛干幹患感慣憾  
換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環  
甘監看竿管簡緩缶翰肝艦

完 四 7 カン

表記群が出ている時  
乙鍵盤の下見

左に3鍵目、即ち、  
左人差指上段の鍵を  
打ってみると、完と  
共に、16が示されて  
いる。

16

## 読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

ついでに、  
表記群が出ている時の機能鍵の機能を  
下見で知る例を二三、スライドで示す。  
機能鍵の働きはShift押しの有無でも異なる。  
不確かな時は、下見の機能で確かめることができる。

## 完 四 7 カン

粥刈苻瓦乾侃冠寒刊勘勸卷  
喚堪姦完官寛干幹患感慣憾  
換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環  
甘監看竿管簡緩缶翰肝艦

## 完 四 7 カン

表記群が出ている時  
機能鍵の下見

|  
↑ (K58)  
← (K59)  
→ (K60)  
↓ (K61)  
BS (K62)  
Enter (K63)  
の6鍵は、  
倣い入力の間だけ、  
百相鍵盤が使う。  
鍵の表示はしないが  
機能は下見で確認  
できる。

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完璧 -を期する

表記群が出ている時  
矢印鍵の下見

→ 右に1字進む

粥刈苳瓦乾侃冠寒刊勘勸卷  
喚堪姦完官寛干幹患感慣憾  
換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環  
甘監看竿管簡緩缶翰肝艦

→ 右に1字進む

→ (K60)で次の字に  
進むことが分かる。

60



読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完璧 -を期する

甲鍵盤へ

粥刈苻瓦乾侃冠寒刊勘勸卷  
喚堪姦完官寛干幹患感慣憾  
換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環  
甘監看竿管簡緩缶翰肝艦

甲鍵盤へ

表記群が出ている時  
BS鍵の下見

BS

BS (K62) を打つと  
甲鍵盤に戻ることが  
分かる。

62

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完璧 -を期する

Enter 注目字以下表記の終りまでが入る

粥刈苺瓦乾侃冠寒刊勘勸卷  
喚堪姦完官寛干幹患感慣憾  
換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環  
甘監看竿管簡緩缶翰肝艦

Enter 注目字以下表記の終りまでが入る

表記群が出ている時  
Enter鍵の下見

Enter (K63) を打つと  
注目字以下、表記の  
終りまでが倣い打鍵  
なしに入って、通常  
入力に戻ることが  
分かる。

63

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完璧 -を期する

ここから、「完璧」の  
倣い入力を再開する。

20区 かゆ～カン

粥刈苺瓦乾侃冠寒刊勘勸卷  
喚堪姦完官寛干幹患感慣憾  
換敢柑桓棺款歡汗漢澗灌環  
甘監看竿管簡緩缶翰肝艦

完璧 -を期する

表記群が出ている時  
例：完璧

下見を終了させて、  
左人差指上段の鍵を  
打つと…

16

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

完壁 -を期する

表記群が出ている時  
例：完璧

完 |

該当鍵が裏鍵盤の時は、配鍵番号の前に■が付き、Shiftを押して打つ鍵であることを表す。

完が入り、次の壁に移る。  
壁は Shiftを押して...

■17

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完壁 -を期する

48～94区（第2水準）

弑 僉 辦 咫 圈 奸 屐 廖 悄 憂 據 曄 \*  
楫 壁 汭 漾 𤇀 瓠 癩 磧 筐 紂 罅 隋  
M 茵 蓐 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎬 陝 顱 髻 鵝  
堯 纁 忒 狖 釗

完壁 -を期する

表記群が出ている時  
例：完璧

完 |

Shiftを押しながら  
K17 左人差指上段右  
(16が左人差指上段  
だったから、17は  
その右隣)を打つと  
...

■17

読みで漢字・語句（表記）を引く

かんぺき

完璧 -を期する

64区 犬玉

猥 猾 獎 獮 默 獬 獮 獨 獐 獸 獵 獻

獺 珈 玳 玢 玻 珀 珥 珮 珞 璫 琅 瑯

M\_ 琥 琿 琲 珪 瑕 琿 瑟 璫 瑁 瑜 瑩 瑰

瑣 瑪 瑤 瑾 璋 璞 璧 瓊 瓏 瓔 琬

完璧 -を期する

表記群が出ている時  
例：完璧

完 |

乙鍵盤になり、璧は  
Shiftを押しながら  
右人差指下段(K43)  
の鍵を打てば入る、  
と示されている。  
それを打つと…

■43

Shiftを押した状態の  
甲鍵盤

完璧 |

48～94区（第2水準）

	弑	僉	辦	咫	圉	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	椿	槩	汩	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罅	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狖	釗				

48～94区（第2水準）

壁が入って裏甲鍵盤  
に戻る。裏甲鍵盤で  
あることは、自分が  
Shiftを押している  
ので自明である。  
Shiftを放すと…

完璧 |

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 \*

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

1～47区（『き』の配字）

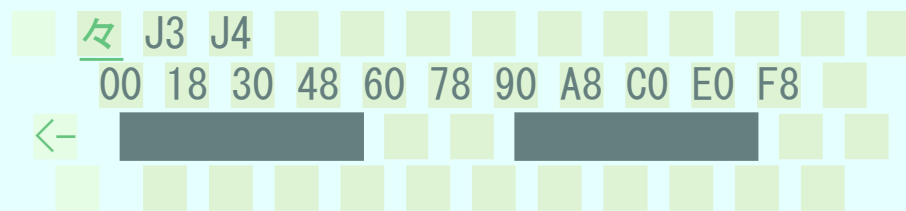
表甲鍵盤に戻る。



## 選択鍵盤 配字簿

配字簿、字引、  
表示簿、読上簿を  
選ぶそれぞれの鍵盤  
の場合は、現在設定  
している簿の該当鍵  
の配鍵番号が緑の字  
で示される。

### 配字簿を取り替える



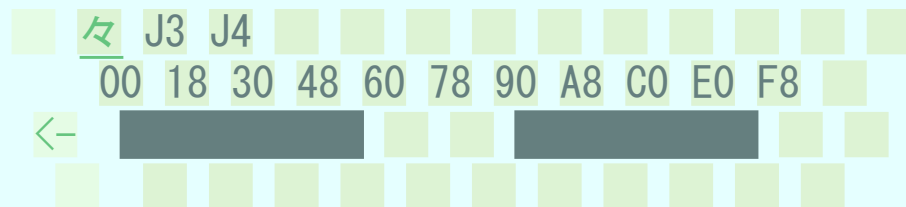
### 配字簿を取り替える

配字簿選択鍵盤の時  
は今設定されている  
配字簿の配鍵番号が  
緑の字で示される。  
個々の鍵については  
下見で知る。即ち…

01

## 選択鍵盤 配字簿

配字簿を取り替える



配字簿を取り替える

配字簿鍵盤の文字鍵  
下見で出る統計値は  
該当甲鍵盤(表裏)下  
の総成立数である。  
但し、無盤表示では  
見えない。

機能鍵 K57を打って  
下見の状態にして…

## 選択鍵盤 配字簿

### 1～47区（『き』の配字）

々	J3	J4													
00	18	30	48	60	78	90	A8	C0	E0	F8					
<-															

### 1～47区（『き』の配字）

文字鍵を打つと、  
その配字簿（甲鍵盤）  
の標題が示される。  
現在設定されている  
K01 は『き』の標題  
が示される。

01

# 選択鍵盤 配字簿

JIS X 0213 1面 1-47区															
	々	J3	J4												
	00	18	30	48	60	78	90	A8	C0	E0	F8				
<-															
JIS X 0213 1面 1-47区															

同様に、右隣のK02は JIS X 0213 1面であることが判る。

02

# 選択鍵盤 配字簿

JIS X 0212(補助)/0213-2(第4)(1~47区)

々	J3	J4											
00	18	30	48	60	78	90	A8	C0	E0	F8			
<-													

JIS X 0212(補助)/0213-2(第4)(1~47区)



更に右の K03は、  
補助漢字等であり…

03

## 選択鍵盤 配字簿

U+6000 - 6BFF CJK統合漢字

U+6000 - 6BFF CJK統合漢字

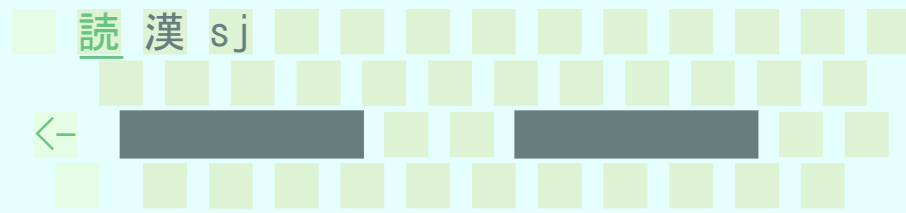
K17はUnicodeの配列を収めた文字鍵盤群の一部であることが分かる。

17

読みで漢字・語句（表記）を引く

選択鍵盤  
字引

字引を取り替える



字引を取り替える

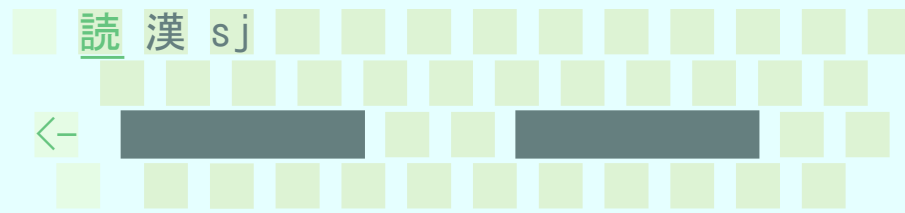
01

字引選択鍵盤では、  
現在設定されている  
字引の配鍵番号が  
緑の字で示される。  
個々の字引の標題は  
下見の機能で知る。

読みで漢字・語句（表記）を引く

選択鍵盤  
字引

字引を取り替える



字引を取り替える

例えば、  
機能鍵 K57を打って  
下見の状態にして…



# 選擇鍵盤 字引

讀漢 sj

01

緑で示されていた01  
の鍵を下見すると、  
現在設定されている  
字引の標題が出る。

以上の例で示したように、

無盤表示の機能により、百相鍵盤は、  
支援の表示に 1 行分の余裕しかない場合でも、  
文字盤方式の利点を生かすことができる。

簡潔な 1 行であれば、見て取るためだけでなく、  
音声でも知らせやすい。

これを、横に長い一本の線上に項目を列挙する様式にすると、  
示されたものを順に探すことに意識が向けられてしまうが、  
“一目で読み取れる短文、補足が必要なら単語 1 つ” に絞ると、  
頭の中にある鍵盤の不明な部分を整えるための見方になる。

ていた01  
すると、

現在設定されている  
字引の標題が出る。

読みで漢

読 漢

<-

## 表示簿の書式

見出し tab フォント名 tab 読上文 tab メモ

見出しは、表示簿を選ぶ鍵盤の該当鍵に出す文字で、文字鍵に収まる1字か2字で表す。

フォント名

該当値がなければ現状維持になる。

・ Windows 用では、次の書式にしてある：

hh. 実フォント名

hh 字高を表す十進数2桁の数字で、00～49。

実フォント名 UTF-8 表記であることに注意。

先頭2字が次の時は、フォント名ではなく、表示様式切り替えの指示に使い、3字目以下は無視する。

即ち、

- ]\_ 鍵盤表示・無盤表示の切り替え指示。
- ]ー 表記群10行表示・1行表示の切り替え指示。
- [] 指置位置、呼び字列矩形表示・不表示の切り替え指示

読上文は、当表示簿を音声で知らせる文字列である。

メモは、使用者が表示簿に書き留めておく文字列で百相鍵盤は読み捨てる。

## 表示簿の記載例

12 tab 12. M S 明朝 tab ;foNtosa^izu zUuni kiFnt\_12 Windows用

12 tab IPAMincho-12 tab ;mi^NtOu zUunipo^iNto  
kiFnt\_S XIM用(Xft)

12 tab -\*-\*-medium-r-normal--12-\*\*\*-\*\*\*-\*\*\*-\*\*\* tab ;foNtosa^izu zUuni  
XIM用(XLFD)

## 配色の書式

Cd\_rrr, ggg, bbb tab メモ

dは、十進数 1 桁の数0～9で、それぞれ、次の配色を表す：

- 0 標題の地(塗り潰した矩形)、配字案内枠
- 1 下見内容を表示する地、下見鍵の地
- 2 一般文字
- 3 甲鍵盤の文字、甲鍵の地
- 4 制御字、呼び字列、鍵の押し状態など機能的内容の地や文字
- 5 背景地、指置位置・甲鍵位置・呼び字列の白抜き字
- 6 注目行の地
- 7 注目字、該当鍵見出し字、文字コード
- 8 文字鍵の地
- 9 押上鍵(Shift, CapsLock, Ctrl, Alt)の地

rrr, ggg, bbb は、それぞれ、赤、緑、青を表す 8 ビット値の十進数 3 桁表記である。

配色は、初期設定ファイル(kiPref)に上記書式で記載しておくことができる。

0～9のすべてを記載する必要はなく、記載がなければ、既定値が適用される。起動後の配色変更はできない。  
見やすくするため、色の数を適度に抑えて、同じ色を地と字で使い分けてもいる。

## 配色の記載例（既定値）

C0_224, 224, 224	灰	light grey+	標題の地、配字案内枠
C1_255, 215, 0	金	gold	下見内容を表示する地、下見鍵の地
C2_0, 0, 0	黒	black	一般文字
C3_0, 0, 255	青	blue	甲鍵盤の文字、甲鍵の地
C4_0, 139, 0	緑	green4	機能的内容の地や文字
C5_255, 255, 255	白	white	指置位置・甲鍵位置・呼び字列の字
C6_255, 250, 205	淡黄	lemon chiffon	注目行の地
C7_255, 0, 0	赤	red	注目字、該当鍵見出し字、文字コード
C8_238, 232, 170	黄	pale goldenrod	文字鍵の地
C9_255, 250, 205	淡黄	lemon chiffon	押上鍵(Shift, CapsLock, Ctrl, Alt)地

一般に、必要な事柄を表示から知る場合、表示される内容やその順序が定まらないものであれば、その都度示されてから順に見て行くことになり、見方は受け身になる。しかし、定まっていれば、必要な個所の見当をつけて、見る所を絞る能動的な見方ができる。

百相鍵盤は、百万の文字鍵を、両手の指で支配できる百の鍵が並ぶ面の3階層で組織化する仕組みであり、目的鍵に至る各階における配列も一目見渡せば判る。配列規則を決めて文字を割り当てておくことにより、常に全体を高所から把握でき、それを頭に収めて置くことができる。すべてを細部まで覚えていなくても、必要なものを適切に取り出せればよく、それを助ける外部記憶媒体がダイナミックに入れ替わる盤面表示である。

従って、百相鍵盤の表示は主に能動的な見方になる。本稿では、そのような状況に応じた支援機能として、様々な表示様式が可能であることを説明した。

以上、百相鍵盤について、スライド形式で紹介してきた。

この入力方法は、文字が **表記の単位**として情報を託す **図形**であることを素直に利用している。

漢字が並ぶ鍵盤を見ると怯み勝ちであるが、並んでいるからこそ、**互いの位置を教え合う存在**になり、膨大な数の文字へのアクセスを容易にしている。従って、文字をよく知ることが入力を容易にすることにもつながる。

現時点では、文字盤入力方式に対する一般の関心は薄いですが、文字盤方式であれば、最近使われ始めたUnicodeも、言語によらず、見通しのよい最小限の打鍵操作で入力できる。システムの基本に据え得る簡素な文字入力の機構に向けて、再認識されてよい時機である。